

# 小松の絵画



「唐子琴棋書画遊芸図襖」(小松市立博物館所蔵)

小松の近世を飾る絵画として、「唐子琴棋書画遊芸図襖」(小松市立博物館所蔵)が特筆される。四面一組の画面で、各縦一七六・〇センチ、横七四・〇センチの法量を計る。金地著色により、中央の遠景に青緑の岩山を配し、画面を横切る欄干らんかんの下部の広場には唐子たちが楽しげに

琴棋書画に興じる場面を描いている。

よく見ると各場面に大人が加わり、各技や秘訣を伝授していることがわかる。背中に赤子を背負った母親もおり、人物は赤子も含めると二四人で、大半は幼少年の子供である。右端の高床式建物の中に琴を弾く場面、続いて二枚目では書画、左端が囲碁を描く。

注目されるのが、小松城の御座敷の襖絵だとの伝えがあることで、画題より大凡納得できる。小松城にはかつて本丸御殿をはじめ、二ノ丸・三ノ丸・葭島よししま・中土居、その他多くの御殿や書院があった。万治元年(二六五八)の前田利常の没後、主に二ノ丸の建物が取り壊された。また城代・城番が置かれたが、明治五年(一八七二)、城の取り壊しと堀の埋め立てが行われた。



ほか小松城に関わる障壁画として、

個人蔵の「牡丹に唐獅子図板戸」二面、

「尋牛図・流水に桜図板戸」二面、「春

秋図襖」四面、「群鶴図襖」二

面（現、二曲一隻の屏風）、「風

俗図屏風」二曲一隻などが知

られる。

「材木町曳山花鳥図天井貼

付絵」（材木町町内会所蔵）も

注目され、縦一六二・五ナセ、

横九三・〇ナセの法量を計る。

材木町曳山の舞台天井絵で、

格天井三列五段の一五図の画

面に菊や琵琶・芥子・朝顔・

燕に藤棚・牡丹・鷺などの花

鳥図を著色により華麗に描く。

材木町に住んでいた粟生屋

源右衛門の筆という。源右衛

門は、父の源兵衛に楽焼を学

窯の吉田屋窯に関り、また蓮代寺窯や  
松山窯の指導にもあたった名工である。

この曳山花鳥図天井貼付絵は、吉田

び、若杉窯で修  
行し、文政五年  
（二八二二）、自

窯を開いた。そ

して同七年に開

屋窯の作品の中から源右衛門の作品を  
識別する上での基準となるもので、そ  
の意味でも貴重である。

曳山の天井絵として、「寺町曳山鳳

凰図天井絵」も見落とせない。若杉窯

の陶画工として知られた北市屋平吉の

筆で、雲と桐に鳳凰を大きく描く。

（北春千代）



材木町曳山の舞台天井絵（材木町町内会所蔵） 九谷焼の名工、粟生屋源右衛門が描いた